

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 救急救命士病院実習受入促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111(内3238)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,738 千円 (前年度予算額： 1,369 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,369	684	0	0	0	0	0	0	685
要求額	2,738	1,368	0	0	0	0	0	0	1,370
決定額	2,738	1,368	0	0	0	0	0	0	1,370

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・医療機関への搬送途上における救急医療を強化し、救命率向上を図るため、平成3年に救命救急士制度が創設され、以降、順次その処置範囲の拡大が行われ、平成16年7月からは気管内チューブによる気道確保が、平成18年4月からは薬剤投与が可能となっている。
- ・救急救命士の資格を有する救急隊員の業務の高度化と資質の向上を図るうえで、医療機関における実習は効果的である。

(2) 事業内容

- ・病院実習の受入医療機関に対し、実習受入に係る各種調整を行う「コーディネーター医」の人件費の一部を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・国庫補助金（医療提供体制推進事業費補助金）の活用
※国1/2、県1/2

(4) 類似事業の有無

- ・類似事業無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	2,738	「コーディネーター医」の人件費に係る補助金
合計	2,738	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県保健医療計画（第7期）

第3部－第2章－第6節救急医療対策－7今後の施策

『救急現場及び医療機関への搬送途上における救命体制を確保するため、県内消防本部の要望を踏まえつつ、救急救命士の養成機関と調整を行い、必要となる救急救命士の数を確保するとともに、救急救命士をはじめとする救急隊員の教育を進め、質の向上を図ります。』

(2) 国・他県の状況

- ・厚生労働省は、医療提供体制推進事業費補助金に個別メニュー（救急救命士病院実習受入促進事業）を設け、救急医療提供体制の充実化を推進している。

(3) 後年度の財政負担

- ・国庫補助金を活用し、事業実施要望があればこれに補助する。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・保健医療計画上、救急救命士の養成が明記されており、事業主体が県であることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

救命救急士の資格を有する救急隊員の業務の高度化と資質の向上を図るため、気道確保等の実習の受入態勢を整備し、運用救急救命士の増加を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H27)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
						達成率
①運用救急救命士数	514	集計中	520	520	520	集計中

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>補助対象外の事業であったため取組は行われていない。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和4年度に就業前教育、気管挿管、ビデオ喉頭鏡、再教育を実施し、計114名に実習を行った。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	救急救命士の処置範囲の拡大とともに、その重要度は増しており、救急救命士の知識・技能の向上のため、病院実習の受入態勢は必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	事業が実施されたのが令和4年度のみのため、事業の有効性の評価ができない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	医師の中から1人をコーディネーター医として指定し、指導内容の調整や受入時期等の調整を行うことで、効率的に実習を受入れ、実施する体制ができている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 コーディネーター医の育成及び受入医療機関の拡充が必要である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 救急救命士の知識・技能の向上のため、引き続き実習受入体制の整備を促進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】